ぎんれい

73

巻 頭 言

古 川 進 一

今年の夏、1 週間以上行方不明になり幸いにも捜索隊に発見され無事生還した 2 件の遭難事故について考えてみました。この 2 件に共通することは、どちらも中高年の単独行であった事です。北アルプスの比較的やさしい夏山コースであったのですが、他のコースに比べ登山者が少なく人目につかなかったのでしょう。

唐松岳から下った方は祖母谷温泉近くで登山道から沢に滑落し、斜面が急であったため登り返すことが出来ず、10 日以上も発見されなかったのです。この間持っていた衣類を全部着て、行動食として持っていたチョコレートと飴を少しずつ食べ救助を待ち続けたとのことです。

もう１件は五色ヶ原近くのざら峠での事故です。獅子岳からの下りで天気が悪かったのか、黒部湖側に張り出している尾根に迷い込み、沢に降り 7 日間も沢の水とバナナと飴で命をつないだようです。室堂にはたくさんの人がいますが、このコースに入ってくる登山者は五色ヶ原と薬師岳へ行くコースなのでかなり少なく、１００分の１位でしょう。

どちらの方も帰宅が予定よりかなり遅くなったので、家族が警察に捜索をお願いしたようです。2 人の方が良かった点は事故地点から動き廻らず、食料を小分けにして食べ、諦めずに救助を待ったことだと思います。携帯電話を持っていても沢の中ではよほど条件が良くなければ通話は不可能です。

最後に教訓として

１、なるべく単独行は行わない。
２、登山届は必ず提出する。
３、迷ったら現在位置が確認できる所まで引き返す。
４、知らない沢には絶対下りない。（人間の心理として下りたがる、途中には滝があって下りられない）
５、非常食は少しでもよいから持つ事。
６、事故が発生したら安全な場所で諦めずに待つ。

目　　次

○　巻 頭 言　　古 川 進 一　　1

○　山行報告

惣山（キノコ山行）	高 橋　忠	4
瑞牆山　茅ヶ岳	佐久間美智子	6
忘年山行・霊山	水 野 照 雄	8
宝篋山	内 田 章 子	10
鶏鳴山	宮 崎　睦	11
生瀬富士から月居山	宮 崎　睦	13
スキー合宿（宝台樹スキー場）	佐 藤　實	16
日光戦場ヶ原（スノーシューハイキング）	水 野 照 雄	17
頸城山塊の山スキー	宮 崎　睦	19
栗駒山（山スキー）	高橋 恵美子	22
鳥海山　山スキー	遠 藤 博 昭	24
越後駒ケ岳	原 田 裕 之	26
半月峠～社山	高橋 恵美子	27
北信　岩菅山	佐 藤　實	29
剣ヶ峰　大入道　三本槍	佐久間美智子	31
鳥海山・万助小舎から	内 田 章 子	33
摺上川　滑谷沢左俣	遠 藤 博 昭	36
赤城山（黒檜山～駒ヶ岳）	水 野 照 雄	37
二岐山、三倉山	佐久間美智子	38
夏山合宿（斑尾山・黒姫山）	高 橋 充 夫	41
白川（イワナ釣り）	高 橋　忠	43
涸沢～北穂高岳	佐 藤 健 一	46
北八甲田	高橋 恵美子	49

○　クロトウヒレン　　金 井 秀 明　52

○　表紙のことば　　金 井 秀 明　53
○　平成 29 年度役員　53

○　ふみあと　54

○　編集後記　56

惣　山（キノコ山行）

高 橋　忠

日　　程　　平成２８年１０月２７日～２９日

パーティ　　水野、宮崎、内田、佐藤、遠藤、永井、高橋(充)、高橋(忠)

恒例のキノコ山行、参加者８名。楽しい山行になりそうだとワクワクしながら小見川を２０時に出発し、沼沢湖バンガローへ直行。例年だと途中のＳＡ辺りでテン泊なのだが、管理人さんのご厚意により、バンガローの鍵を開けておいて頂けたので、バンガローでゆったりと寝ることが出来た。

翌朝、バンガローで朝食を済ませ、下山口(太郎布)に車を１台置きに行く(7:15)。バンガローから車で２往復して、全員を惣山の福沢登山口に運び、近くの駐車場に車を停め、いざ出発(7:50)。天気は上々、紅葉もきれい、透き通った沼沢湖を眼下に眺めながら進んでいく。しかし、前回は杉林を過ぎ、稜線に出た辺りからムキタケが沢山生えていたのだが、今回はなかなかムキタケに出会わない。時期が早いのか、遅かったのか、はたまた、みんな採られた後なのか、だんだんと不安になってくる。出発してから１時間後、なんとムキタケよりも早くナメコ発見。粒の大きい上物である。一本の木に沢山生えている。みんな大喜びでナメコを採取する。これだけでもう満足かな。重かった足取りも急に軽やかに成る。また、山頂が近づくにつれムキタケも見つかり、美味しいキノコ鍋が食べられそうである。

惣山山頂に到着(10:27)。惣山は816m と低い山だが山頂手前は岩場で、梯子や鎖場が有り、景色も良く手軽に楽しめる山である。山頂で記念撮影、抹茶とこしあんの水ようかんなどを食べ､約５０分位のんびりと過ごした｡下山途中でもムキタケが採れ、最初の心配はどこへ、沢山キノコを採ることが出来た。

少し雲行きが怪しくなってきたので、前山行きは中止し太郎布下山口に下山(13:15)。朝置いておいた車で２往復、バンガローに到着したとたんに雨が降り出してきた。どんぴしゃのタイミングである。さすがリーダーの好判断、拍手・・・。

全員で大量のムキタケの下処理をする。その後、キノコの恵み、山の恵みに感謝をしつつ、ビールで乾杯(14:40)。一息ついたところで汗を流しに、いつものつるの湯へ向かう(15:17)。入浴後、バンガローに戻り、内田さんの誕生会。ケーキ、クラッカー、遠藤さんのマリリンモンロー風のハッピーバースディの歌、さらには充夫さんのギター伴奏でのフォークソングの熱唱が続き、大いに盛り上がったところで、第２弾のキノコ山行の宴会へと続く。キノコ鍋に舌鼓を打ちながら酒がどんどん進んでいく。あっという間に１１時半も過ぎ、水野さんのストップがかかる。１年のうち１番お酒の量が増えるのがキノコ山行だ。

最終日、遅めの朝食(8:26)。今日は観光をしながら帰ることに。最初に見学したのが鶴ヶ城(11:31)。続いて、飯盛山(14:16)、さざえ堂。

磐梯山を車中から眺めながら帰路に就く。今年も大いに盛り上がり、楽しいキノコ山行であった。

瑞牆山　芽ヶ岳

佐 久 間 美 智 子

日　　程　　平成２８年１１月１１日～１３日

パーティ　　宮崎、遠藤、高橋(忠)、佐久間

１１日　双葉 PA でテン泊

１２日　快晴、無風の中、瑞牆山山荘の駐車場から枯葉のジュウタン道を歩き出す。約１時間で富士見小屋着。ここではカレーや中華丼の食事もできます。そして午後のトイレもここです。

天鳥川を渡ると桃太郎岩という大きな岩があり、岩の下には支えるように大小の枝が差してあります。まるで枝のケルン。道はだんだん岩がゴロゴロしてきました。

大ヤスリ岩は、大きな岩がドーンと地上に出てきたような迫力で立っていました。見上げればその先に青空が広がり、岩も空もお互いを引き立てている様子です。圧巻。ここから頂上までは鎖あり、大きな岩ありで、全身を使いながら登ります。

そして頂上。ちょうど一年前に登った五丈岩が目印の金峰山ともご対面。うっすら雪化粧をしています。富士山、八ヶ岳、無数の山が見えます。この頂上にいる全ての人がウットリ、同じ感動をしていることでしょう。岩の頂上なので足場は悪いですが、あっちへこっちへと場所を変え360°の展望を大いに楽しみました。

下山後はラジウム温泉「増富の湯」で入浴。

キャンピカ明野ふれあいの里にテントを張り、ゆっくりくつろぐことができました。

１３日　山容が八ヶ岳に似ているので「にせ八つ」と異名がある芽ヶ岳。でもこの「にせ」という言い方は芽ヶ岳に失礼だと思います。私はもう八ヶ岳に登る体力もないと思うので、この芽ヶ岳を「私の八つ」と思って登ります。

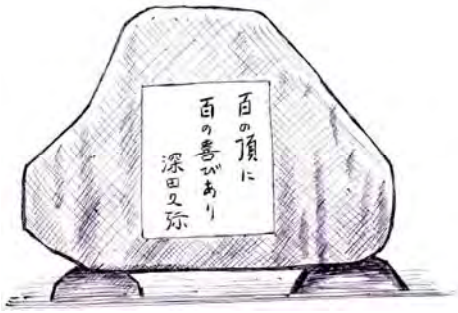
8 時 30 分、駐車場はほぼ満車。案内の方がいてトレッキングマップをいただきました。女岩経由で登る。女岩を過ぎると、つづら折りのような登りがしばらく続きます。稜線に出ると富士山が見え、深田久弥終焉の場所。

20 分ほどで頂上。今日も展望は良好です。混んでいる山頂を後に尾根道

経由で下山。
駐車場の近くに深田記念公園があり、「百の頂に百の喜びあり」の直筆の言葉が刻まれた記念碑が建っています。私も自分が納得できるような言葉がひとつでもできたらいいなと、ふと思いました。
しめくくりは甲斐市民温泉「百楽泉」でゆっくり入浴。帰りに渋滞に巻き込まれることも知らず…。

コースタイム

瑞牆山	瑞牆山山荘駐車場	7:30
	富士見平小屋	7:56
	天鳥川	8:39
	大ヤスリ岩	9:52
	瑞牆山山頂	10:37
	〃　下山	11:58
	天鳥川	13:19
	富士見平小屋	13:47
	瑞牆山山荘駐車場	14:34
芽ヶ岳	駐車場	8:38
	深田久弥終焉の地	11:13
	芽ヶ岳山頂	11:37
	〃　下山	12:19
	深田記念公園	14:00



忘年山行・霊山

水 野 照 雄

日　　程　平成２８年１２月１４日～１６日

パーティ　宮崎、遠藤、高橋(忠)、佐藤、内田、高橋(恵)、水野

安達太良山をくろがね小屋くらいまで歩く予定であったが、安達太良山はすっぽりと雲に覆われていた。中通りから太平洋側は青空が広がっている。ガスの中を歩くのも気が進まず、急遽行く先を霊山に変更する。

霊山登山口の駐車場は降ったばかりの新雪が 7～８ｃｍ積もっていた。駐車場から見る霊山は岩壁が連なり、雪をかぶった樹林と相まって、結構立派である。

登山道も新雪に覆われているが、歩くのにはほとんど支障ない。宝寿岩の展望台からは遠く吾妻連峰も望めた、奇岩の多い山でそれぞれに立派な表札が立っている。登山道は幅が広く歩きやすい、新雪をまとった樹林と青空のコントラストがきれいである。

護摩壇入り口で他のメンバーと別れ、内田さんと登山道を行き、護摩壇を回ってきたメンバーと霊山城跡で合流する。(護摩壇を回るコースは霊山のハイライトと言えるところだそうです)、ここから最高点となる東物見岩（８２５ｍ）まで歩き、昼食とする。宮崎さん自家製の干し芋をごちそうになった。太平洋が見えたので少しびっくりしたが、地図を見ると見えてもおかしくない位置に霊山はあった。

天の釣舟を経て日暮岩入り口に戻り、周回コースが終わり、まもなく駐車場へと帰り着く。

本日の宿、岳温泉の“きら里”へ向かう。

岳温泉は共同浴場に入ったことはあるが泊まるのは初めてである。平日限定の格安コースとの事であったが温泉も食事も満足できるものだった。

今年もまた 1 年が過ぎてしまった。毎年恒例の“ゆく年くる年”のお酒で乾杯し、楽しい忘年会の夜は過ぎていった。

2 日目は二本松城跡に行き、頂上の天守台まで登ってみた。良い天気で 360 度見渡せるが今日も安達太良山は雲に隠れていた。智恵子と光太郎が立った地にはレリーフが立っていた。

この後、智恵子の生家と智恵子記念館へ行き、智恵子への認識を新たにした。

最後に“安達ケ原の鬼婆”伝説の地と黒塚を見て帰路に就いた。

駐車場から霊山

最高点の東物見岩にて

宝篋山

内 田 章 子

日　　程　平成２９年１月１２日

パーティ　高橋（恵）、遠藤、高橋（忠）、内田、その他１名

「筑波山の隣の山」と検索すると、この宝篋山が出てくる。入会を希望して見学に来た人から初めて聞き、知った山だ。

お正月気分もそろそろ抜けてくる頃の平日、運動不足解消も兼ねて行って見ることになった。噂どおり駐車場は、平日にもかかわらず、ほぼ満車状態。知る人ぞ知る人気の山のようだ。

歩き始めの田んぼの中を行く道も、梅の蕾がほころび、里山といったいい感じだ。迷いそうな角々には小さな標識がしっかりと建てられている。登るコースはいくつかあるが今日は極楽寺コースを行く。

小さな沢に沿って登って行くと小滝にそれぞれ名前が付けられている。慈悲の滝に始まって、五条の滝、こころの滝、白滝など。

沢を抜けると見晴らしも良くなり、下の街も見渡せる。ハートの形のちいさな岩には「幸せのハート岩」や富士山の形の岩には「富士岩」と手作り感の看板があり、のどかな感じが楽しい。雑木の広々したところを過ぎると頂上は間近だ。

間もなくきれいなバイオトイレのある広場に出ると、一登りでおおきな電波塔のある宝篋山頂上に着く。頂上は木製の立派なテーブルや椅子がいくつもあり、ゆっくり休憩できるようになっている。それに展望が素晴らしく、目の前に筑波山が雄大な姿を見せている。

早速、忠さん手作りのきれいに彩られたチョコバナナ、コッフェルに板チョコを沢山入れ、熱々のチョコフォンデュなど、テーブルに並ぶ。毎度、毎度、おいしさはもちろんのこと、楽しませてくれる。

帰りは小田城コースを下る。少し下ると、昔、山頂が女人禁制だったとき女性はここで祈願したという下浅間(女人浅間)、幸福の門と名付けられた大きい岩のトンネル、硯石など、歩いていて飽きさせない。こちらのコースは眼下に街が見渡せる展望の良いコースのようだ。

標高 461mの宝篋山はのんびり楽しいハイキングの出来る、とてもいい山だった。ちなみに宝篋山の篋は箱という意味だそうで宝箱の山ということ？

鶏　鳴　山

宮 崎　睦

日　　程　平成２９年１月１４日
パーティ　高橋（忠）、佐久間、宮崎

昨日から日本列島に大寒波が来ているため、今日は気温も下がり、日光市も日中に雪が降る予報です。

小見川役場に７時集合で出発。北関東道に宇都宮上三川ＩＣで降り、一般道で宇都宮ＩＣまで行くが、土曜日のため渋滞も無くスムーズに走行でき、日光有料道路の大沢ＩＣで降り登山口に行く。

登山口には、２台の車両が駐車しており、天気予報が悪くても登山者がいるようである。

出発の準備をしていると、降雪が強くなり道路は白くなってきたので、雨具を着けて歩き出す。

林道をしばらく歩いてから、杉林の登山道に取り付くと、急登の道で途中には作業道を横切る個所も有り、雪の登山道ですが迷うことは無く歩けました。

降雪で視界が悪いのと、杉林のため眺望はほとんどない山で、山頂は雑木林の中でした。到着した時には降雪のために視界が悪く眺望は有りませんでし

たが、食事中に幸いにも雪も止み、樹林の間から日光連山が眺望できました。

山頂までの間に下山してくる単独者２名とすれ違い、山頂から９４７Ｍピークの間で反対側から登ってきた単独者１名とすれ違い、本日の登山は３名の登山者と会ったのみであった。

積雪は、山頂付近で２０センチ位有りましたが、アイゼンの必要な所は有りませんでした。

雪の下に枯葉が有る所が多く、滑りやすかったので下山の時は、慎重な歩きとなりました。

山頂からの下山は、９４７Ｍと８１５Ｍのピークが有るので、アップダウンの繰り返し。途中で宇都宮方面の眺望が有る所もありますが、下山時も杉林の中を歩く登山道でした。

延べ標高差は約６２０Ｍと、急登と急下りで眺望の無い山であったが、酉年の山で新年の登り始めの山とする事ができ、雪道を歩いての山行で楽しめました。

来年は戌年、ネットで検索すると関東近辺に、犬の山名の山は少ないが、縁起を担ぎにまた登りたいです。

車止め	９：５０
登山口	１０：２０
５２０Ｍ	１０：４０～１０：５０
７６０Ｍ	１１：２５～１１：３５
鶏鳴山	１２：２０～１３：０５
８１５Ｍピーク	１３：５５～１４：０５
車止め	１５：０５

生瀬富士から月居山

宮 崎　睦

日　　程　平成２９年２月４日

パーティ　内田、高橋（忠）、佐久間、宮崎

小見川役場に６時集合で出発、常磐道の那珂ＩＣで降り、Ｒ１１８号線で袋田の滝駐車場に到着。

駐車場は、登山者や滝の見物客の車が２０台位駐車していたが、駐車場が広いので問題なく駐車できた。

内田さんは、別ルートで月居山に登るので、内田さんに見送られながら３人で出発しました。

登山道は良く歩かれているので分かりやすく、登り始めは斜度もきつくないので、快調な歩き出しであったが、生瀬富士山頂付近は、残置ロープも有る急登であった。

生瀬富士の山頂は狭く他の登山者も居るので、記念写真を撮り日光方面の山々の眺望を楽しんで、少し休憩してから立神山へと向かう。

生瀬富士からは、凄い急な下りで慎重な歩き出しとなり、立神山への登りや下りも急な登山道でした。

以後も、細かい急なアップダウンの尾根歩きで、滝川が流れる尾根の右側は崖となっているので、注意して歩かなければならないルートです。

途中に有る袋田の滝の展望台からは、少し木々が邪魔になるが滝の全貌

が眺められ、滝の上部はかなり凍結していました。

渡渉点の水量は少なく問題なく渡れましたが、水量が多いと渡渉できなくなることや、靴を濡らしたりすることがあるでしょうし、凍結していると、軽アイゼンが必要な場合もあるでしょう。

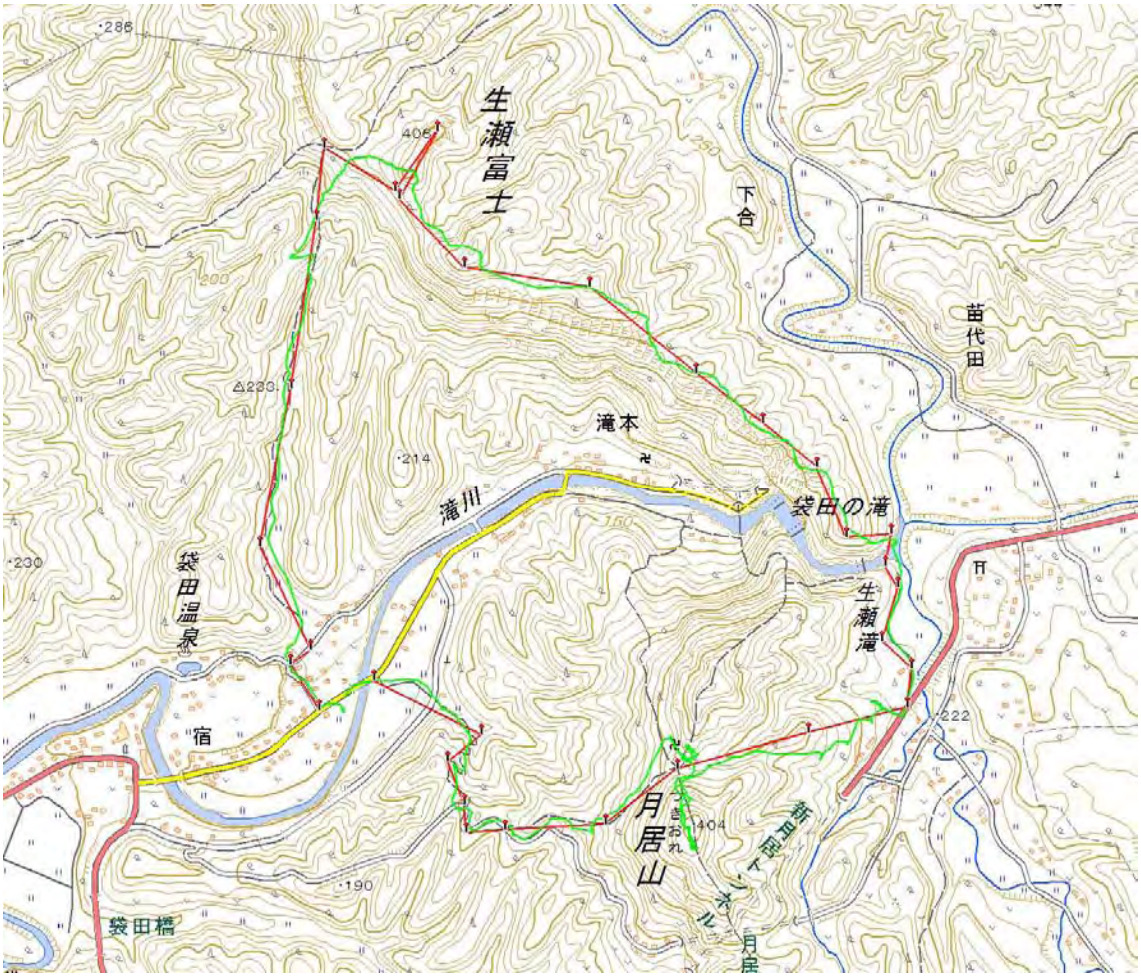
Ｒ４６１号線に出て少し歩くと、月居山の登山口となり、再び登山道を登り始めるが、１時間半位休憩を取らないで歩いており、結構疲れた登りではあったが、内田さんは、すでに月居山の山頂付近にいる、との事でしたので休まずに歩きました。

観音堂の分岐から山頂までの最後の急登は、疲れが溜まっているので厳しい歩きでしたが、内田さんに出迎えられて山頂に到着。

山頂で記念写真を取った後に、風の来ない場所に移動し、昼食を食べてから、観音堂へと向かう。

観音堂で代わる代わる鐘を突き、そこからの登山道は、今までの道の様に急な登山道では無く、なだらかな下りの道で歩きやすかった。

駐車場に戻ると、滝見物の客の車で駐車場は満車の状態で、滝見の湯で入浴し、途中の日立大宮市に新しくできた道の駅に立ち寄り、小見川役場に帰りました。



町営袋田第一駐車場	９：０６
生瀬富士	１０：００～１０：１５
立神山	１０：３０～１０：３５
袋田の滝展望台	１１：１０～１１：２５
渡渉地点	１１：３５
Ｒ４６１月居山登山口	１１：４５
月居観音堂分岐	１２：０５
月居山	１２：１５～１３：２５
町営袋田第一駐車場	１４：２０

スキー合宿（宝台樹スキー場）

佐　藤　　實

日　　程　　平成２９年２月６日～８日
パーティ　　永井、関、佐藤、高橋（充）

スキーは不参加でも関さんと会える夜だけ、宿に合流してくれるスノーシュー・スキー組のおかげで、賑やかな「合宿」の呼び名に相応しい形が続いていました。

会の在り方や志向も価値観も様々です。楽しいのが一番と、誰もが思うことは良くわかります。

今年は諸事情を踏まえ、日程を無理に合わせる必要もないと考え、それぞれ別パーティで計画する事になりました。

ご迷惑を返り見ず、又関さん宅に前夜泊をお願いして、食事付きのおもてなしを受けました。奥様にも厚く御礼申し上げます。

ここ数年、スキー合宿は天候に恵まれずリフト終点からの谷川連峰も、とんとご無沙汰になっています。今日は又曇りで、宿でゆっくり支度をして白樺ゲレンデに向かう。平日で滑りやすく、何より新雪ふかふかの雪がヒザ下位でも軽くスキーが回ってくれ、調子に乗ってしまいそうだった。

足慣らしをして上に行くが、風も出て視界の悪い時もある。新雪気分は最初の２本目位迄で、その後はボードも入り平常のゲレンデ状態になった。

いつもながら、関さんの後を離れずに付いて行けるのは最初だけ。充夫さんはとてもきれいな姿勢で上手に滑る。何とも羨ましい事です。昼食後は天候も良くないので３時位には宿に上がって来ました。

いつもなら子供達が沢山いる宿も、今日は静かでのんびりムードでした。

食後部屋に戻り、こたつが丁度良い４人で色々な話をする。会の事や皆さんのこと関さんはいつも気にかけてくれていますよ。

昔２人だけで冬山合宿をしました。４人のスキー合宿は充分に思える夜でした。

８日、今日も晴れとはいきません。昨日と同じようにゲレンデに出てスキーを楽しむ。体が慣れてきても太腿の筋肉痛がひどい。長いコースは何度も休み、滑る有様です。午前中頑張った後、充夫さんと最後の一本を欲張って、上りにする。

帰りは温泉入浴と食事をして、関さんを送り帰途に着きました。

日光戦場ヶ原（スノーシューハイキング）

水 野 照 雄

日　　程　　平成２９年２月１８日～１９日

パーティ　　原田、大竹、佐久間、内田、宮崎、遠藤、水野

日光は近いので早朝 6 時に小見川を出発する。

10 時に赤沼の駐車場から歩き始める。会の山行は初めての大竹さん、久しぶりに原田さんも加わり、賑やかな感じがする。足回りは、宮崎さん、内田さん、佐久間さんはスノーシュー、遠藤さん大竹さんは輪カン、私と原田さんはスキーの予定だったが、コースがよく踏み固められていたのでツボ足で行く。

雪に覆われ、葉をすべて落とした雑木林の道は、見通しが良く、薄曇りだが明るい雰囲気で気持ちよく歩く。輪カンの大竹さんはルートを外れた林の中を歩き、感触を確かめていた。展望台を過ぎ、小田代ヶ原へ向かう入り口には鹿除けのゲートがある。小田代ヶ原に沿う林道は凍ってカチンカチンのアイスバーンになっており、雪のある所を拾って慎重に行く。小田代ヶ原を一望するベンチでお茶にする。気温は低いが風はほとんどない。のんびりしてから泉門池へと向かう。

泉門池では休憩している人達が大勢いた。記念写真を撮って戦場ヶ原の自然研究路に入って行く、この頃から青空が広がり、戦場ヶ原の広々した雪原の後ろには男体山をはじめとする日光の山々が堂々とした姿を見せている。この風景と、内田さんの紫のヤッケ姿はよくマッチして、モンベルのポスターになりそうだった。湯川沿いの道を、風景を楽しみながらのんびり歩き、出発点の赤沼の駐車場へ戻る。

宿に入るにはまだ時間が早いので龍頭の滝と湯滝を見学してから湯本温泉の宿に入る。温泉で暖まり、夕食後は遠藤さんの誕生日祝いで盛り上がった。

2 日目、朝から青空である。宿から歩き始める。湯本周辺にはスノーシューのハイキングコースがいくつかある。我々は源泉の横から金精道路へ上がる。冬で閉鎖されている広々した道路を金精峠へ向けて歩く。振り返ると湯けむりを上げる湯本の街を隔てて湯ノ湖が見える。行く手正面には金精山が結構立派な姿で見えてくる。道路が金精沢に近づいた所から沢に向かって下りる。

ここからスキーの 3 人（原田、遠藤、水野）はお楽しみである。歩く人には申し訳ないが、楽ちんの下りとなる。宮崎さんはスキーでこなかったことを残念がっていた。金精沢にもハイキングコースがあり、スノーシューツアーと思われる人達にも行き会う。宿に戻り、湯めぐり券を使って他の宿の温泉に入り、汗を流して帰路に就く。

2 日間天気にも恵まれ、雪上のハイキングと温泉を楽しめた山旅でした。

泉門池で男体山をバックに全員集合

戦場ヶ原のモデルさん

頸城山塊の山スキー

宮 崎　睦

日　　程　　平成２９年３月４日～６日
パーティ　　宮崎、他６名

４日（黒姫山）

つくばスポーレで、リードのクライミングを毎週水曜日に一緒にしている、Ｋさんに同行させてもらった山行記録です。

Ｋさんは、今年７１才になりますが、今もハーフマラソン大会に出場している、体力抜群の人です。

スポーレを５時集合で出発するためには、自宅を３時過ぎに出なければならず、当日に自宅を出て行くのは、きつい日程なので前日の夜に自宅を出て、スポーレの駐車場で車中泊し、５時前にスポーレを出発した。

２月２５日に全線開通した、圏央道を利用し関越道へ行きましたが、通行車両は早朝でも多かったです。

上信越道の藤岡ＩＣで降り、藤岡市役所で待ち合わせの、川崎市から来たＡさんをピックアップし、再度上信越道に乗り、信濃町ＩＣで降り近くの道の駅「しなの」で、今回の企画の主催者である富山市のWさんと待ち合わせる。

Wさんは、非常に会員になるのが難しい日本山岳会の会員で、１ シーズンに３０日以上山スキーに行っている人です。

道の駅には９時１０分頃に到着しましたが、すでにWさんは到着しており、ここで着替え等の準備をして、黒姫山南側の登り口にWさんの車の後について行く。

登り口は夏山合宿の時に駐車した場所で、１０台位駐車しておりシールを着装し、夏山合宿の下山に使った林道を登ります、天候は晴れで風もあまりなく、歩いていると暑くて汗が出てきます。

３名の歩くのは速く、ついて行くのが辛く最後はかなり離されてしまい、途中の休息も会の山行は板を外してゆっくりと休むのですが、山スキーの基本である、シールを外す時以外は、板を外さない立ち休みなので、疲れも回復せず辛い登りでした。

１９００Ｍでシールを外し休む時も今までは、板をあまり気にせずに置いてしまいましたが、斜面と直角に滑走面を上にして必ず置く事等を教えてもらいました。

滑り出しは斜度が有りましたが、斜面が広いのでまずまずの滑りで行けました、しかし疲れているので、段々と基本ポジションを取ることができなくなり、足腰が痛くなって辛い滑りになってしまい、他の３人は滑るのも上手いので、下山も最後です。

Ｗさんの定宿となっている、燕温泉の「燕ハイランドロッジ」に行くと、翌日の山行に参加する、愛知県の２名と群馬県の１名はすでに到着しており、お互いに自己紹介をしてから２部屋に分かれて宿泊しました。

５日（粟立山）

８時に朝食を取り、群馬の方は今日帰るので、それぞれの車で登り口に向かい、除雪終了場所の空地に駐車し、風邪で体調が悪く宿で休息しているＡさんを除く６名での登りです。

沢沿いの林道を登り、林道終了点からも更に沢沿いに登り、途中にはデブリが数箇所有り、本日は出だしにビーコンを着装しての登りです。

天候はうす曇りで昨日より寒いので、防寒着の上着を着ての歩きで、他の人は登るスピードが速いので、本日もビリの登りで滑降場所の９６６Ｍにやっと到着です。

登る途中で追い越していった若者は、山頂近くまで行き滑ってくるのが見えましたが、斜度もきつく雪崩れそうな所です。やはり上部まで行く人は滑りも上手く直ぐに滑り下りて来ます。

滑走は、昨日より高度が低いので重い雪質ですが、それほど滑りにくいとは感じませんでした。

愛知の２名は私と同じ位のスキーレベルなので、６名で滑ると途中の待ち時間も４名の時より長くなり、余裕の有る滑走ができた。谷筋で立木もほとんど無く滑りやすかったです。

今日も、Wさんの撮影した、粟立山の滑りの動画を見せてもらった。疲れているので、昨日同様に２１時過ぎには就寝。

６日（神奈山）

今日は、群馬の方が帰ったので６名での山行です。宿から車で少し下った、関温泉のスキー場に駐車し、リフト１本を滑り降り、リフト乗り場の所が登り口で、初めは急登で辛い登りでしたが、徐々に斜度が緩んで歩きやすく楽になりました。最後は、斜度の有る斜面を登り１３３０M地点の台地に到着する。

ここからは、野尻湖や野沢温泉等の眺望が素晴らしい所でした、滑走は樹林帯の滑りで、昨日より気温も上がり重い雪質でしたが、それほど苦労せずに滑れました。

林道に出る最後の密な樹林の下りは、「横滑りでやっと降りることができた」と言う様な感じで苦労したしましたが、何とか林道に降りることができました。

林道で再度シールを着装しリフト乗り場に戻り、リフトに乗り駐車場まで帰り解散となりました。

藤岡市役所で１名を降ろし、帰路も圏央道を使いスポーレには１８時３０分頃には到着しました。

翌日は鶏足山登山の予定が有り、スポーレで８時待ち合わせのため、自宅には帰らず、スポーレと同じ建物内に有るスーパー銭湯で入浴し、駐車場で車中泊。

４日（黒姫山）

大橋	9:30	
新道分岐	11:10	
1900M	12:40～13:15	
大橋	14:20	

６日（神奈山）

関温泉リフト乗り場	9:30	
1330M	11:50～12:15	
関温泉リフト乗り場	13:30	

５日（粟立山）

除雪終了点	9:30
966M	12:35～13:05
除雪終了点	13:45

栗 駒 山（山スキー）

高 橋 恵 美 子

日　　程　　平成２９年４月２日～４日

パーティ　　佐藤、水野、遠藤、高橋（忠）、宮崎、内田、高橋（恵）

確かに、山スキーは楽しい。歩いてはとても時間のかかる所でも比較的短時間で入ることが出来るし、何より真白に輝く山々を間近に見ることができる。が、そんな楽しさも「上り」のみの話だ。白状しよう、私は気が小さいのだ。いざ滑り降りる段になると足がすくみ、腰がひける。これから楽しい時間なのに、滑りを楽しむことが出来ない。板をコントロール出来ない。自信の無さが膝も足首もガチガチにする。こんなんで山スキー行っていいの？

２日７時４５分、旧いこいの村駐車場で身支度、シールを付け出発。内田さんはスノーシューで。朝からとても良い天気だ。イワカガミ平までの道路の除雪作業は始まっていて雪の壁が出来ている。コースはヘアピンカーブを突っ切るような感じで右側のブナの樹林の中を登って行く。所々に現れるガードレールで下に道路が有ることがわかる。

イワカガミ平に着いたところで休憩。レストハウスもトイレもまだ雪の下、見えているのは屋根だけだ。正面に真っ白な栗駒山。真っ青な空に雲ひとつなく、東栗駒から栗駒まですっきり見渡せる。こんなにいい天気で、こんなに気持ちいいところで、スイスイーと滑れたらなぁ。ここから頂上直下までは緩やかに上って行く。直下のちょっと急な斜面を登りきり１１時２０分山頂に到着。スキーを付けたまま上がって来ることができました。上りは楽しいよね。
３６０度の素晴らしい眺めに満足感が沸く。東北の名だたる山々が見える。

天気は良くても、やっぱり頂上は風が強くいつまでも休んではいられない。１１時５０分いよいよ下山。みんな気持ち良さそうに滑り降りて行く。遅れまいと恐る恐る滑り出すが、やっぱり体が言うことをきかない。どうにかしてくれ～と叫んでもどうにかなるはずもなく、置いていかれないように、怪我だけはしないように必死で追いかけていくのみ（と言うよりも、待ってもらうのみ）。イワカガミ平まではほぼ無木立バーンで、一番気持ちが良いはずなのに余裕が無いのでちっとも楽しくない。レストハウス前まで下り昼食タイム。やっと一息、やれやれである。去年に続き２度目のみんなは、去年よりずっと条件が良いと嬉しそうです。

樹林帯に入れば、ほぼ横滑りで下ってしまうのでちょっと気が楽、木にぶつからないことだけ気を付ければいい。除雪車の雪の塊を吹き上げる様子や雪の壁を覗いたりしながら１３時半無事下山。途中から別行動だった内田さんの待

つ駐車場まで戻りました。何のかんの言ってもやっぱりスキーは早く、３時間半かかって　登ったのに半分弱の時間で降りてきてしまいました。

その後、翌日に歩く予定の世界谷地の駐車場まで下見に行き、途中で採ったフキノトウの天麩羅がハイルザームの立派なコテージでの食卓を飾ったのでした。

天気に恵まれ、素晴らしい景色を堪能できた山行でしたが、滑りに関しては相変わらずで（ゲレンデにさえ行ってないのだから上手くなるはずもないのだけれど）行先はスキー板に聞いてくれ～状態で、操作に四苦八苦。余裕が無くあまり楽しめなかったのに、無事下山してしまえば又行こうかなと思ってしまうのは何故？

コースタイム

旧いこいの村駐車場７：４５　～　イワカガミ平９；１０　～

頂上１１：２０／１１：５０　～　駐車場１３・３０

鳥 海 山　山スキー

遠 藤 博 昭

日　　程　　平成２９年５月２日～５日

パーティ　　宮崎、高橋(忠)、遠藤

今回で３年連続のスキー山行になる。年々行く人が少なくなり、今年は３人になってしまった。何時ものように月山道の駅にて仮眠を取る。

3 日、庄内あさひのコンビニで朝食を済ませ、また高速に乗り登山口へ向う。酒田の先から内陸の方へ向かい祓川を目指す。途中鳥海山の眺めのいいところで写真を撮る。天気も上々で真っ白い山がとても綺麗に見える。途中でフキノトウを少し摘んでいく。駐車場に着くと満車状態で一番隅にスペースを確保し辛うじて止めることができた。今日はいつもと同じく避難小屋辺りまでを目指す。今回私はスノーシューを買ったので登りにスノーシュー、下りはミニスキーで滑る事にする。9 時 10 分、駐車場を出発、初めてのスノーシュー、歩き始めは少し違和感があったが慣れてくると快適に登れる傾斜のきつい所はかかとを上げる仕掛けになっていて歩きやすい。途中一回の休憩を入れて、11 時避難小屋の前に着く。ここで大休止、周りを見るといっぱい登っている。さすがゴールデンウィーク去年より多いかも。さて滑る準備をする。久し振りのミニスキー、だいぶ前のやつなので心配であったが何とかなりそうだ。二人に遅れを取らないように何とか滑り降りることができた。祓川小屋前 12 時 30 分に到着した。小屋に入り部屋を予約する。今年は泊まる人が多く頂上の見えない反対側の少し小さな部屋になった。14 時過ぎに小屋の前から展望台の方へ散歩に出かける。のんびりと頂上の方を眺めて過ごす。帰る人も多くなり上の駐車場を見に行くと空きが出ており、確保しておいて宮崎さんに車を持ってきてもらう。荷物を運び部屋に店を広げる。泊まる人が多く炊事場も込みそうなので、早めに夕食の準備に取り掛かる。取ってきたフキノトウの天ぷらをつまみに、美味しい酒が飲めた。

4 日、4 時半に起きる。窓の外を見ると丁度日の出の時間で綺麗な朝焼けが見えた。忠さん急いで写真を撮りに行く。朝食を済ませ荷物を整理して 6 時 20 分小屋前を出発。天気は上々である。上を見るとすでに登っている人が良く見える。下からもどんどん上がって来る。今日も大賑わいだ。よその登山客と抜きつ抜かれつ頂上を目指す。今年はスノーシューなので少し楽かと思っていたが、だんだん後れを取ってしまう。宮崎さん忠さんは体力があるのか、まだ若いのか、頑張りがきく。11 時、頂上直下に着く。今年は雪が多かったのか頂上まで雪が付いている。荷を置き 7 分頂上到着、新山の方へ向かう人もちらほら見える。何とか今年もここまでこれた・・・　記念写真を取り早々に下山準備、数日前に雪が降ったらしく、雪が深くて滑りにくい。短い板

だと潜ってしまい中々ターンするのが難しい。傾斜が緩くなり雪が閉まって来ると快適に滑れるようになった。途中風の当たらないところで休憩し無事滑り終える。小屋前13時過ぎだったか、あんなに苦労して登ったのに滑り出すと早いものですぐ終わってしまう。車に戻り場所移動。途中入浴後鉾立口へ向かう。ブルーラインを登り駐車場に着くと異様な雰囲気、人がいっぱい車もいっぱい、夕焼けでも見に来ているのか？　駐車スペースをようやく見つけ鉾立山荘に行くと客が一杯で泊まれないとのこと、仕方なくどこかテントでも張ろうかと付近を探したがいいところもなく、前に泊まった西浜のキャンプ場に向かう。こちらも大賑わいで、自分達でテントスペースを見つけたら受付に来てくださいとのこと、何とか見つけ泊まるとこ確保。こちらの方に来てこんな事初めてだねとみんなで呆れる。

5日、昨夜は遅くまでうるさくまんじりとしない寝起きである。今日は帰る日で鉾立口からの入山を諦め、以前行った月山道途中のネイチャーセンターから湯殿山へ登るルートを適当な時間まで歩いて帰ることにする。こちらは人もいなく静かに歩けそうだ。8時30分出発、石跳沢沿いに登っていく。道幅も狭く帰りをミニスキーで滑るのは大変そうなので持つのを止めた。以前来たあたりの眺めの良い所で終わりにする。遠くに朝日連峰が良く見える。上を見ると月山の方から滑り降りてくる人が見える。下に降りて見えなくなって少しすると湯殿山へ登っていく二人が見えた。コーヒーを飲みながら眺めていると、登るスピードが早い、ぐんぐん登っていく。何とたくましい人がいるものだ。ここで切り上げ下山、二人はスキーなので早い。最初こそ雪が悪く滑りにくそうだったが、だんだん見えなくなった。二人に少し遅れて11時30分ネイチャーセンター前到着。志津の温泉に入り帰宅した。

越後駒ケ岳

原 田 裕 之

日　　程　　平成２９年５月３日
パーティ　　原田

５時過ぎ、車中で目覚めた。銀山平森林公園の駐車場周囲の雪は氷化していた。スキーで登れる山ということで選んだが、下りの快適さと登りの苦労を勘案し、スキーは置いていく事にして出発した。ストックは持った。道は北ノ又川の対岸にあるため、１m 近く氷化した雪の積もった橋を渡った。道マークのある川沿いは氷化した斜面だったので、国道に登ろうとしたが途中で歯が立たなくなり、アイゼンを着用した。10m程登って国道に出てアイゼンは外した。結局アイゼンを使ったのはここだけであった。7 時頃駒ケ岳への登山道の取り付きに到着。夏道の尾根のひとつ南の尾根筋を忠実に登高。４０分ほどで急登を終え、緩やかになってきた。隣の支尾根にはスキーで登っている人が４人程見えた。この頃には雪は柔らかくなり始めた。尾根上で一部雪が切れ、１００m 程夏道を辿った。ここだけが雪の切れている箇所であった。道行山を越え、小倉山に差し掛かった頃からペースが落ちてきた。百草ノ池のあたりからは休み休みであった。急斜面をジグザグに、トレースを辿るより自分の感覚で登っていった。駒の小屋の手前に小さなクレバスが数個あり、慎重に越えた。小屋の脇で休み、一気にゆっくりと頂上まで。若干薄雲があったが青空が広がってる。充分に景色を堪能した後、12 時 20 分ごろ下山開始。駒の小屋を過ぎ、クレバスを越えたあたりからグリセードを始めたが、所々でもぐり気味になって引っかかってしまった。最後の下りは往路と異なる夏道のある尾根を下った。樹林の中は雪の緩みが少なく、快調にグリセード混じりで下った。尾根の取り付きからは川沿いの林道だが、少しの登りでも堪える。なんとか駐車場に到着し、帰路についた。

銀山平６：00ー尾根取り付き７：00ー駒ケ岳 11:50-12:20ー尾根取り付き 14:20ー銀山平 15:25

半月峠～社山

高 橋 恵 美 子

日　　程　　平成２９年５月１４日～１５日
パーティ　　遠藤、高橋(忠)、内田、高橋(恵)、他１名

行ってみたい山の一つだった社山に行くには、半月山の展望台からピストンした方が早い事は解ってはいたが、ヤシオを見ながら中禅寺湖畔を歩きたかったので　敢えて湖畔からの道を選んだ。

１５日６時１５分、歌が浜の駐車場を出発。ここから湖畔を歩いて狸窪登山口まで小一時間。湖畔のシロヤシオを期待してきたが蕾はまだ硬く大部遅れていそうだ。千葉も昨日は５月とは思えない真冬のような寒さだったし、当然日光も寒い。降り出しそうな空模様もいつまで持つか？

狸窪からうす暗い登山道に入る。稜線に出るまで展望は無いが所々現れるアカヤシオの可愛らしさに慰められる。

半月峠に着く頃には霧雨になり、先も長いし、こんな天気では何も見えないだろうということで半月山へのピストンは止めにする。中禅寺山を超えると稜線を堺に右側はつつじの林、左側はカラマツときれいに分かれている。ツツジもカラマツもまだまだまだ芽吹きには遠い感じで、季節が逆戻りしたようだ。背の低い笹原も茶色で寒々しい。シロヤシオを愛でながらこの稜線を歩きたかったが残念！　早過ぎました。けれど、もう咲き終わってしまっただろうと思っていたアカヤシオが、まだまだ残っていて楽しめました。かなり大きな木もあって見応えがありました。登山道はよく踏まれていて歩きやすいが、所々崩れて狭くなっている。

阿世潟峠が近づくとガスの切れ間から中禅寺湖が以外な程の近さで見え、大部下って来たことがわかる。やがて案内板が立てられた峠に着いた。峠から湖畔の道までは１５分程で下れるが、幸い雨もザーザー降りになることはなく、降ったり止んだり、風も無いので社山まで行くしかない。社山まで標高差４００Ｍ、頑張ろう！

笹原の道はしっかりしているが急登で幅も狭く、つまずいたら転げ落ちてしまいそうでちょっと緊張してしまう。樹林帯を抜けると１５６７Ｍピークに出る。ここにもアカヤシオが何本も。ガレた道を少し下ってまた上りになる。ダケガンバの中を縫うように付けられた笹原の道は、晴れていれば、見晴らしの良いとても気持ちのいい道らしい。

偽ピークを何度かやり過ごし、右手にコメツガ林が見えてくると、頂上も近い。１１時半、やっと到着。長かったね。大きな岩がゴロゴロ、寄りかかるの

にちょうど良い。大休止、昼食にする。ここで忠さんのザックから、私のための誕生日ケーキが出てきました。なんとまぁ、ホールのチョコレートケーキじゃないの！　こんな山の上まで！　今更誕生日なんて恥ずかしいけど、嬉しいよね。ありがとう！

一時間程休憩し、下山にかかる。やっぱり下りは早い。湖岸道に出る頃には晴れ間も出てきて、新緑が気持ちいい。プライベートビーチのような浜を歩くのもまた気持ちがいい。英大使館の庭で山々を眺めながらまったりとお茶を楽しみ、歌が浜へと戻りました。

久々の長時間歩行で、少々ハードになってしまいましたが、それなりの充実感も味わえ、思っていた以上にツツジも多く「近くて良い山」がまた一つ見つかった思いです。またいつか花の咲く頃、できれば天気の良い日に歩きたいものです。

コースタイム

歌が浜駐車場６：１５　～　半月峠８：１８／８：３８　～　阿世潟峠　９：２７／９：５６　～　社山１１：３６／１２：３３　～　阿世潟峠　　１３：１５／１３：４４　～　歌が浜駐車場１５：４０

北信　岩菅山

佐 藤　實

日　　程　　平成２９年５月１９日～２１日
パーティ　　遠藤、佐藤、高橋(忠)、佐久間

かつての個人山行がしたくなり、遠藤さんに声をかけた。他の計画と被ることなく、二人共初めての岩菅山がすぐに決まる。幸い、忠さんと佐久間さんも参加してくれて今風に言えば「ラッキー」という処です。

スキーの聖地、志賀高原まで車で７、８時間と言う認識も昔のこと。北関東道と圏央道をうまく使うと４時間余りで長野入りができてしまう、と言う訳でリンゴ畑の横にある道の駅でゆっくり仮眠を取ることが出来ました。

２０日、快晴です。清々しい空気と朝もやの向こうに北信五岳が浮び、信州、信濃、大好き人間としては命の洗濯なみの、うれしい朝となりました。今宵の宿になる湯田中温泉を横目に見て、奥志賀スーパー林道を一ノ瀬に向かう。先客なしのゲート前に車を止めて朝食タイムの後、登山口迄フキノトウを見ながら歩く。みんな「帰りに採ろうネ」と思いは同じ筈。

登山口から残雪を踏んで小三郎小屋跡に出る。上条用水路に沿って平坦ながら、よそ見の出来ない道が荒板沢迄続く。橋を渡り沢に落ち込んだ雪壁の通過にはピッケルが欲しい位だが、皆不安な素振りもなく通り抜けられたのは頼もしいかぎりです。更に荒板沢の先は急な斜面が立ちはだかり、登り口が不明でした。やや右寄りに取り付くも夏道らしきは見当たらず、遠藤さん先頭で背たけのあるクマ笹の中をひろう。後ろには、この山行中ただ一人出会った男性がいて「取り付きに戻る」と言う。上部の平地への方向は合っているので、遠藤さんに「戻ろう」と言いそびれて４人でヤブ漕ぎ続行。忠さんの地図ナビも活躍です。前方に先の男性の声も聞こえて３０分近くの寄り道が終わる。この時期、初心者には登れない山です。

ブナや栂の巨木林の中も夏道不明瞭。下りの為に赤テープを所々付けながら地形と自分の目標をチェックしての歩きは、昔取った杵柄でワクワクするものがある。残雪が更に多くなり、傾斜の急な樹林のトラバースが続き、踏み抜きにも苦労させられた。

左に岩菅山が見え、樹林を抜けると展望が開け、ノッキリに着く。休憩の後、山頂迄の一気登りは今日一番の頑張り処でみんないいペースで登っていく中、自分は山頂に着けるのかと思う程きつく感じた。

少し遅れて頂上に立つと３６０度の展望です。眼下には魚野川源流が切れ込ん

で、行けずに終わった小ゼン沢も見えた。
　いつものように忠さんが記念写真を撮ってくれて大休止する。佐久間さんのハッピーバースディもささやかにしか出来ないけれど、この展望がおまけです。
　ノッキリから又、トラバースルートに戻り巨木林も迷うことなく下る。登りで迷った荒板沢上部には階段などの夏道があり、注意深く捜せば見えたのだと思う。
　沢沿いも踏み抜き、スリップ注意で来た道を戻り、一ノ瀬口に下山しました。単調な車道では、思い思いに上物のフキノトウを採りながら車に戻る。
　今回は４人共、１回ずつ転倒やスリップをしたものの大事に至らず一安心でした。次回の反省材料としたいと思っています。

　自慢出来る程ではない地図読みや雪の雪上技術、危険予知などの感を駆使して遊ぶ、山菜山行ではない「６月山行」の楽しさを、少しだけ忠さんにお見せ出来たと思うのですが。

　有名どころのスキー場前を通り、一路湯田中温泉に向かう。
眺望はともかく、４人で３０畳もある部屋に案内されて、それはそれで寝る所に迷ったりです。おいしい食事と湯田中の温泉にひたり、本当に久しぶりで楽しい山に来られた思いがしました。仲間に感謝です。
　２１日、忠さんは良く眠っていたので、散歩がてら朝市を見に出かけた。いいもんです。戻る途中、遠藤さんと佐久間さんに会い、もう一度朝市を見て食べ頃のコシアブラや土産物を買って来ました。今日も快晴で、黒姫や妙高がきれいに見えます。
　小布施に戻り観光客に変身。北斎館をゆっくり見て回り、おそばを食べて帰ってきました。
　コースタイム

一ノ瀬ゲート	６：０５	－	６：４５
登山口	７：００		
取水口	７：４５		
ノッキリ	１０：５０		
休憩	１１：０５	－	１１：１５
岩菅山	１２：０７	－	１２：５５
ノッキリ	１３：３０		
登山口	１５：５０		
ホテルゆだなか	１６：１６		

剣ヶ峰　大入道　三本槍

佐 久 間 美 智 子

日　　程　　平成２９年６月３日～４日
パーティ　　宮崎、高橋(忠)、佐久間

今回の山行はゴヨウツツジ（シロヤシオツツジ）を見に行こう！です。

３日

８時過ぎ、駐車場はすでに満車状態。幸運にも小間々台の駐車場に停められました。ささやかな晴天のもと、ハイキングのように歩きます。
ほどなく大間々台。朱色のレンゲツツジの群落が広がっているはず…らしいのですが、花は少なめでした。枯れてしまったのかと思う木が多かったです。
見晴コースで剣ヶ峰へ。眼科に広がる平野や低い山は、色こそ濃・淡あるけど、みな緑、初夏です。

八海山神社で登山の安全を祈願。ゴヨウツツジの木も見えてきましたが、花は少ないです。咲かなかったのか、散ってしまったのか?
宮崎さん曰く、「今年は花が少ない」これが答えです。
ゴヨウツツジの花は純白で清楚。葉も柔らかな黄緑色で、葉先が茶色でふちどられているのがおもしろい。願わくはゴヨウツツジの花のトンネルの中を歩きたかったな。有名な縄文ツツジや小間々の女王（トウゴクミツバツツジ）も花はつけていませんでした。満開を想像することもできず、機会があったら、また訪れて見てみたいです。

下山後、那須温泉「鹿の湯」で入浴。那須町野外研修センターのバンガロー泊。

４日

北温泉から三本槍の予定でしたが、那須ゴンドラの料金が半額になる新聞広告のようなものを、なんと宮崎さんが持ってきていたのです。断る理由なんてありません。乗りましょう！
ゴンドラ山頂駅から中の大倉登山道をタケノコを採りながらゆっくり歩きだす。
今日も晴天。赤面山、茶臼岳、朝日岳、きれいに見られてうれしい。
ピンクのシャクナゲも咲いています。忠さんはピカ笑顔で花と一緒にハイチーズ。
クマ笹の緑の道に登山者の服やリュックの赤、青、黄などの色がよく合います。
登るにつれ、ガスってきて、風も強くなってきました。その風の冷たいこと。冷たいこと。三本槍の山頂に立っても何も見えません。身体をもっていかれそうなほどの強く、恐ろしい風とガス。写真だけ撮り下山。

下るにつれ、私達はまた晴天の中。山頂近くはまだあの風が吹いてガスに包まれているのでしょうか。
まるで異次元に行ってきたような感じの三本槍山行でした。

コースタイム

剣ヶ峰	小間々駐車場	8:32
	大間々台	9:06
	八海山神社 10:15	
	剣ヶ峰	10:42
	大入道 12:01	
	小間々台駐車場	13:29

三本槍	那須ゴンドラ山頂	8:40
	中の大倉登山道	9:02
	赤面山分岐	10:10
	北温泉分岐	10:34
	三本槍山頂	11:10
	那須ゴンドラ山頂	13:22

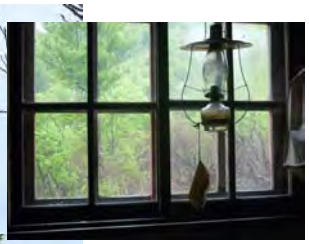
鳥海山・万助小舎から

内 田 章 子

日　　程　平成２９年６月８日～１１日

パーティ　水野、宮崎、佐藤(實)、遠藤、高橋(忠)、高橋(恵)、内田

憧れの万助小舎に 12 年ぶりに行った。



春先､｢6 月の山菜山行は万助小舎から鳥海山へ｣との計画を水野さんから聞き、信じられない思いだった。このコースからの鳥海山は私の中ではもう行けないだろうと諦めていたし、ましてや、あの小舎にまた行けるとは・・・それほど居心地の良いなんとも素敵な、私の憧れの小屋が万助小舎なのである。

最初は 13 年前、やはり 6 月の山菜山行。残雪を踏み山菜をたくさん採り、2 度目は翌年、10 月の紅葉のとき。仙人平から千畳ケ原の金色に輝く草もみじの中を歩き、その時の楽しかった思い出が万助小舎と共に鮮明に残っている。

6 月 8 日　　70 歳も半ばになった私のため、水野さんは荷物のことも配慮してくれていた。私の荷物係りに指名されてしまった忠さんからは、マットの取り付けからエトセトラ、アドバイスを受けて、いよいよいつものように小見川へ。

6 月 9 日　　一の滝駐車場はあの頃と何も変わっていなかった。釣りをしてから登って来る遠藤さん等 3 人と別れ、私たち先発組も身支度をしてボチボチと出発。

新緑の森はみずみずしく美しい。足元にはツバメオモトの白い花がひっそりと咲く。「また、来れたんだなぁ」感慨に浸りながら歩いていると、後ろの高橋さん

が「内田さん、靴が変だよ」見てみると底が半分剥がれてパクパクしているではないか。
まだ序盤だというのにどうしよう。とりあえず高橋さんのガムテープで応急処置。何とか小舎まで行かねば。
　川辺の休憩ポイント渡戸からはコイワカガミの可愛らしいピンクの花が、登山道の両脇を飾って出迎えてくれているような。登るほどに木々の間から、青空をバックに悠々とした笙ケ岳が姿を見せる。だいぶ小舎も近くなったと思われる辺りからは、木の幹や枝をまたいだり、くぐったりの残雪の登りとなった。この前来たときは、難なく小舎に着いたように思えたが、半分壊れた靴での雪の登りはきつい。「着いたよ」の声と赤い屋根が見えた嬉しさは何とも言えなかった。
　赤い格子のガラス窓、絵本の白雪姫の挿絵に描かれているような小屋の佇まい（少なくとも私の中では）懐かしい、やっと来ました！
中はそのまま。薪ストーブ、ランプ、一段高くなった部屋、二階、などなど。
流しにまだ水を引き入れてはいないので、そばの沢に水汲みや、テーブルを出したり疲れも忘れて、みんな嬉々として働く。
それほどの時間差もなく、釣り組の 3 人も到着。充分過ぎる程釣り上げたイワナを持って。一休みしてお茶をしてから、食料調達のため、小舎から上へみんな山菜採りに出掛ける。着いたときには靴はバラバラに壊れてしまっていたので、一人で小舎番をする。「オオカミが来るからドアをちゃんと閉めてね」とか、言い残されて。
　明日の天気予報は雨なので、小舎停滞になるのだろう。もしかしたら小屋停滞は、銀嶺に入って初めての夏山合宿、石転び沢からの梅花皮小屋以来だろうか。
あまり上までは行かなかったようだが、明日の分まで何とかなりそうな量のコシアブラ、ハリブキなど採ってきてくれた。
　いくつものランタンの灯りとストーブの赤い焔が、いやがうえにも小舎の雰囲気を盛り上げる。イワナのホイル焼き、唐揚げ、コシアブラやハリブキの天ぷら等など。
楽しい宴会の始まりです。
　6 月 10 日　　雨の音で目を覚ます。シュラフの中で聴く雨の音は心地よい。迷うことなく停滞決まりの合図のようでもあって。みんなそれぞれの時間をぐだぐだ過ごす停滞もたまには楽しい。
　午後になって雨も止み、青空も見えてきたので山菜を採りながら、ドッタリ辺りまで行って見ようと仕度する。小舎にある長靴を借りて中に新聞紙など詰めてみたがそれでも大きく、行ける所までとする。忠さんは体調不良でシュラフの中。
借りた大きい長靴は、詰め物をしてもゆるゆるで登るも下るも歩きづらく、早々

に小舎に戻る。
　みんなは昨日より上まで行ったようで、何袋もたくさんの山菜を採ってきた。例の如く、山盛りの山菜を料理別にみんなで下処理をする。
明日は下るだけという気楽さと、ほとんど小舎の中でのんびり過ごしていたので、今夜の宴会のため、みんな元気いっぱいだ。持ってきたお酒は全部呑み、昔話やらいろいろな話で盛り上がり、楽しい楽しい夜が更けていった。
　6 月 11 日　　雨。もう来ることはないかも知れないと思うと名残惜しく、赤い格子のガラス窓から見える景色、アップリケで丁寧に作られた「万助小舎」の暖簾、ランプ、ストーブなど目に焼き付ける。
すっかりバラバラに壊れた靴を、足に括り付けなければならないので、座らせられて、背中を支えられ、足を持たれ、括り付け作業をみんなにしてもらう。宮崎さんの沢用のアイゼンをしっかりつけ、みんなが持っていた針金で括り、ガムテープでグルグル巻きにして。
雨の中の下りをなんとか車を置いてある駐車場まで行かなければならない。
駐車場の建物が見えて、もう大丈夫と思える辺りに着くころは、さすがに靴もギブアップと言っているようにボロボロだった。

靴のこと、荷物のこと、その他いろいろ皆さんにお世話になりました。
おかげさまで憧れの万助小舎を思いっきり楽しむことが出来ました。
　ありがとうございました。

摺上川　滑谷沢左俣

遠 藤 博 昭

日　　程　　平成２９年６月２８日～３０日

パーティ　　宮崎、高橋(忠)、遠藤

この時期毎年くるようになってしまった。釣りをして、焚き火を楽しむのにはとてもいい沢である。今年は塩焼き用の竹櫛を作ってきた。テンバの周りには太い竹がなく良い櫛が出来なかった。

29 日、前夜発で 6 時半に登山口の栗子トンネル前の駐車スペースに着く。荷物をまとめ 40 分出発、年々道が良くなっている。旧街道の万世道路の保存会があるらしい、この奥にある古いトンネルまで 1 時間かからなくなってしまった。トンネル内の崩落した土砂も取り除かれ歩きやすくなっている。入渓点の烏川橋へは 8 時到着、ここで沢靴に履き替え入渓、水量はいつもと変わらずか、少し下りだすとちょっとした深場に魚影が走る。今年は釣れるかも！期待して沢を下る、2 時間ぐらい下って滝の大きい所を高巻で降りる、去年は渕も大きく深かったのだが土砂で埋まりだいぶ浅くなっている。ちょっと竿を出すがあたりがない、ここから又 2 時間位下るとテンバに着く。テンバの少し手前で先客が釣りをしていた。3 人で来ていて昼から帰るとのことだ。私らもまだ早いのでここらへんで本格的に釣りを楽しむ。辺りを見るとミズがたくさんあるので摘んでいく、13 時頃二股のテンバに着く、先客が帰り支度をして居る所で焚き火はそのままにしてもらう、少し離れた所にテント設営後枯れ木を集めて薪を作る。一段落後本流を釣り上がる。まずまずの釣果でテンバに戻る今年は型のいいのが釣れた。大満足である。たき火を囲み持ってきた櫛で塩焼きを作る。焼けるのを待ちながら、からあげ、ミズをつまみに酒が進む今夜も楽しい夜だ。

30 日、6 時 40 分出発、今日は本流を登り上部にある裏見の滝上にあるテンバを目指す。途中いいポイントがあればその都度竿を出し釣りを楽しみながら登る。二股 11 時 40 分到着、いつもならこの周辺でこ一時間遊ぶのだが空の雲行きが怪しく先へ進むことにした。裏見の滝 14 時 20 分到着、ここまでくればテンバはすぐそこ、先客もおらず、静かに過ごせそうだ。テントを張り、置いてあるシートをお借りしてタープも張った。これで雨対策終了、薪を集め少し上にはミズが畑のように生い茂っている。煮つけとみそ汁にと美味しくいただく、夜になって雨が降り出し張ったシートのおかげで快適に過ごせた。

7 月 1 日、今日は帰るだけ少し遅い朝になる、昨夜の雨も上がりホッとする。お借りしたシートをかたづけテント撤収。8 時 40 分出発、毎年来ているせいか、沢が歩きやすくなっているのか終了点の太平橋まで 1 時間で来てしまった。ここから林道に上がり下山。11 時 50 分駐車場に到着、飯坂温泉で風呂につかり帰宅。

赤城山（黒檜山～駒ケ岳）

水 野 照 雄

日　　程　　平成２９年７月６日～７日

パーティ　　高橋(恵)、内田、遠藤、高橋(忠)、水野

夜行日帰りのハイキングだから参加しませんか、という高橋(恵)さんからの誘いがあり、これに乗らないと声がかからなくなるのではと思い参加する事にした。

７月７日、大洞の駐車場から歩き出す。大沼沿いの道を黒檜山登山口まで歩く。朝の湖畔は人気がなく、赤城神社へ架かる赤い橋が湖面に映り、静謐な雰囲気で気持ちがよい。

登り始めは尾根へ出るまで、結構急な登りが続く。久しぶりの山行で体がなじむまでは辛抱である。大沼を見下ろせるあたりまで登って、沼と赤城神社の景色を楽しむ。前に来た時は冬だったので、凍った湖面の上にワカサギ釣りのテントがカラフルに見えていたが、今日は青空を映した湖面に緑の山並みが映って夏らしい景色である。ドウダンツツジの花が時々現れ、登りの疲れを紛らわせてくれる。

頂上を通過して展望台で昼食とする。ガスが湧いてしまい、残念ながら良い展望は得られなかったが、忠さんが凍らせたミカンゼリーを皆に配ってくれ、汗をかいた体をひやしてくれる。とんでもない贅沢をさせてもらった。平日でほとんど人に会わなかったが、ぽつぽつと単独行の若い人が登って来る。

頂上へ戻って記念写真を撮り、駒ケ岳へ向かう。内田さんは好調で油断していると離されてしまう。下りでは少し疲れも感じてきて、遅れないよう何とかついて歩く。駒ケ岳の頂上ではガスに覆われてしまい、何も見えなかった。

ここから鳥居峠へ向かう。途中、樹林の間から覚満淵を見下ろす。鳥居峠の駐車場に着いてやれやれである。峠の茶屋でソフトクリームを食べ、登山の疲れをいやす。鹿よけのネットをくぐって覚満淵に下りる。よく整備された木道をのんびり歩き、ベンチのある所で最後の休憩をする。観光客の姿もちらほらあるが、緑に囲まれた中、広々した淵と湿原の風景はのんびり寛げる良い所であった。

大洞の駐車場へ戻り、赤城神社へお参りに行き、橋の上から鯉に餌をやるが、カルガモや他の魚も集まってきて、三つ巴のバトルとなり、面白かった。

スカイボルトラインを下り、滝沢温泉で汗を流して、帰路に就く。

久しぶりに緑の森を歩き、リフレッシュできたが、この位の山行でも、結構厳しく感じるようになって来ている。これからも季節ごとの山を楽しみたいが、選択肢は段々少なくなっていきそうな気がする。

二岐山、三倉山

佐 久 間 美 智 子

日　　程　平成２９年７月１４日～１６日
パーティ　宮崎、高橋(忠)、佐久間

みなさんは山開きに参加したことがありますか？　私は初めてです。
「三倉山々開き」　ニッコウキスゲとバスでの送迎（登山口と下山口が違ってもこれなら大丈夫）と先着 250 名に配られる記念バッヂが魅力です。

１４日　三春 PA でテン泊

１５日　御鍋神社登山口から二岐山へ。最初から登り、登りの連続。
案内板にも「八丁坂」の文字。汗もふき出ます。
ブナ平に入ってからは歩きやすく、男岳山頂へ。霞がかかっていて展望は良くありません。
その後、女岳へ登りますが、木々に囲まれたポツンとした山頂でした。ここが女岳なんて…ちょっと淋しい。
お天気が良いので汗タラタラです。そうなると楽しみなのがお風呂。湯野上温泉「にしき屋」で入浴。
以前、市民山行で利用した宿ということ。お風呂上りに麦茶を頂き、利用料金もおまけがあったよう…。忠さんの話の持っていき方（交渉）が上手だったのですね。おかみさん、ありがとうございました。
宿はキョロロン村テントサイト。雨、雷の予報が出ている影響か、テントは私達ともうひと家族のみ。
テントを張り、1 時間くらいすると、雨。おいかけるように雷。外で雷の音を聞くなんて、そうめったにありませんよね。くわばら、くわばら。

１６日　山開きの日です。朝早くから宮崎さんがテキパキとカレーの準備をしてくれました。
5 時 30 分頃会場近くに行くと、もうすでにたくさんの車、人。その行列の中に私達も加わります。記念バッヂは残り 5 個くらいのきわどさで頂くことができました。参加費 1000 円。抽選会もありましたが 3 人ともハズレ。受付を済ませた後はバスの列に並びます。小さなコップでお酒がふるまわれました。“会津„おいしかったです。
登山口は式典会場になっている音金と、バスで 30 分くらいの大峠林道終

点の２か所。私達は大峠林道からです。いつも少人数で歩いているので、前にも後ろにも人、人にはせかされます。
大峠ではニッコウキスゲが見えてきました。ヤマブキ色がきれいです。そして１か月前に登った三本槍もよく見えました。あの時はガスと強風で何も見えなかったのに。感動です。ちょうど良い休憩所にはたくさんの人が休んでいて、場所もありません。
流石山から大倉山へ。今日のもうひとつの登山口から登った人ともすれ違うようになってきました。三倉山々頂では登山者の方からお神酒を頂きました。唐沢山でようやく大きな休憩。そこからは下り、下り。会場だった音金に着いた時は周りに人影もなく、いつものように私達３人だけ。いつもと同じなんだけど、朝のあのにぎやかさを知っているので、キツネにつままれたよう。
約 7 時間、私なりに一生懸命歩いたけど、「皆、本当に速いんだ」という事実と、山開きは「お祭りだ～」というのが感想です。
道路には主人を待っている車が何台か停まっています。もうすぐ帰ってくるよ、バイバイ。キョロロン村ちゃぽランドで入浴。この中に山開きに参加した人がいたかもしれません。おつかれさまでした。

コースタイム

二岐山	御鍋神社登山口	7:03
	ブナ平	7:58
	二岐山男岳山頂	8:48
	休憩	
	二岐山女岳山頂	9:32
	男岳山頂	10:00
	ブナ平	10:56
	御鍋神社登山口	11:45

三倉山	大峠登山口	7:24
	大峠	8:07
	流石山	9:21
	大倉山山頂	10:29
	三倉山山頂	11:18
	唐沢山山頂	12:04
	音金登山口	14:27

平成29年7月16日

第20回

欲しいお弁当・バッグ・キーリング・セット！

「三倉山々開き」へようこそ！

〔三倉山の特徴〕

三倉山は、日光国立公園内那須連峰に抱かれ、標高を上げる那須茶臼岳を背後に望み、下郷町唯一の標高1，888．0mを誇っています。（因みに、富士山はこの倍の標高です。）三倉山における7月の植生は、ニッコウキスゲが山肌一面に群生し、またハクサンフウロウ・コバイケイソウ・ミヤマリンドウ等高山植物の宝庫でもあり、行き交う登山者を魅了しています。皆様、どうぞお楽しみ下さい、！！

～ 登山コースのご案内 ～（逆のコースも可能です）

開催式典（音金登山口） → 大峠林道終点（登山開始） → 大　峠 →

6:00～6:30　（バス移動）　8:00　9:00

流石山 → 大倉山 → 三倉山（お昼） → 空沢山

10:00　11:00　12:00　14:30

→ 音金登山口下山　16:30

※〔登山者へのお願い〕※

- 飲料・防寒具は必ず用意しましょう。
- 単独行動は避けて下さい。
- 登山中は自分の体力を考えて、無理のないようにしましょう。
- ゴミは持ち帰りましょう。
- 高山植物の保護をお願いします。

問合せ先：三倉山々開き実行委員会　会長　石田[illegible]
℡ 0241－67－2691

夏山合宿（斑尾山・黒姫山）

高 橋 充 夫

日　　程　　平成２９年８月１日～３日

パーティ　　宮崎、遠藤、佐藤、内田、高橋（忠）、高橋（充）

7 月 31 日の午後８時、小見川支所に集合、2 台の車に分乗して出発。今年の夏山合宿は、長野県と新潟県の県境にある斑尾山と黒姫山である。思えば、昨年の夏山合宿は坐骨神経痛による足腰の痛みで不参加だった。体調の維持管理を痛切に感じた昨夏であったが、今年は体調万全で迎えることができた。

東関道、圏央道、関越道、上信越道を走り、途中の松代ＰＡでテント泊。テント泊では相変わらず熟睡できず、それでも明け方近くになって少し眠れたのが救いであった。

一日目

早朝ＰＡを出発し、細い山道を走って釜石山分岐登山口から午前８時頃登山開始。夏山合宿への参加は 2 年ぶりで、前年のキノコ山行以来、久しぶりの山登りである。今回の山行に備えて、ウォーキングなどの運動はしてきたが、山登りとなるとどうなるか、少しの不安を抱えての参加となった。しっかりとみんなについていけるか、頑張って歩こうと自分を励ました。

10 時山頂(1382m)着。霧が出て、眺望は望めなかったが、それでも涼しい中で快適に歩けた。『意外といける！』と自信が持てた斑尾山であった。

今回の山行では近くの野尻湖にある湖楽園キャンプ場に寝泊まりすることになっている。湖のほとりで対岸に山々が見える雰囲気の良いキャンプ場である。早速タープテントの設営、椅子やテーブルの設置を終えてから近くの入浴施設(苗名の湯)で汗を流した。キャンプ場に戻ってからは、食事、飲み会、山の話題で盛り上がり夜が更けていった。

二日目

早朝起床。昨晩は睡眠不足と山登りの疲れが重なって、ぐっすりと眠れた。気分爽快である。今日は黒姫山。昔そんな関取がいたなあ、このあたりの出身か…と懐かしく感じつつ、大橋林道登山口から午前７時３０ 分頃登山開始。登山道に入ってすぐ、木立の中に雰囲気の良い湖が現れた。古池というらしい。池を回り込んで歩くうち、何やら顔の周りをブンブン飛び回る物が。アブである。水辺にはよくいるこの虫は、刺されたら痛いし、しつこく我々の周りを飛び回る。両手で振り払いながら山道を進

む。ここは虫が多い。絶えず虫の羽音が襲ってくる。それでも高度が上がるにつれて快適になってきた。

山の斜面を這い上がってくるような霧の流れは見ていて飽きなかった。最後にかつてここが火山であったことが分かる大小の岩場を超えて正午過ぎには山頂(2053m)に到着。今日も山頂からの眺望は望めなかったが、久しぶりの山登りで不安を感じていたが、二つの頂に立てたことで達成感は十分味わえた。山を下りてから、昨日と同じく苗名の湯で汗を流し、キャンプ場で夕食。今日も気分よく酔って眠りについた。

三日目

ご当地の観光メインの一日である。まずナウマン象博物館。ここ野尻湖はナウマン象の化石が出土するらしい。今までナウマン象の名前は聞いてはいたが、『ナウマン』がドイツ人の学者の名前とは知らなかった。この辺りは地質的に古く、数万年前まで生息していたナウマン象やこれを狩りする人々が暮らしていたことが興味深く、数々の化石や石器等の展示物を鑑賞した。オオツノジカの標本の何と大きいことか。鹿というより象の大きさである。次に立ち寄ったのが小林一茶記念館。『おらが春』で有名な江戸時代後期の俳人はここの住人か。弱者へのいたわりの作風は大いに共感するところである。記念館の敷地内にある一茶の墓は、黒姫山を始め信州の山々に見守られるように建てられていた。その後メルヘンの世界を感じさせてくれた黒姫童話館、水量豊富な苗名の滝を見学。帰途に就く途中、信州ヒスイそばの名店で昼食。店の壁には、政治家や芸能人といった著名人の色紙が誇らしげに飾られていた。

スキーでは来たことがある斑尾。野尻湖を挟んで斑尾に対面する黒姫。２年ぶりに参加した夏山合宿だったが、とても楽しく、虫に刺されたことも含めて印象深い山行であった。

白　川　（イワナ釣り）

高　橋　忠

日　　程　　平成２９年９月６日～８日

パーテイ　　宮崎、水野、遠藤、内田、高橋(忠)

飯豊山の登山口にある大日杉小屋。内田さんのお気に入りのきれいな小屋である。この小屋に泊まり、すぐ裏手に流れる水量豊富な白川で昨年同様イワナ釣りをすることになった。昨年は９月下旬で（私は参加できなかったが)、あまり釣れなかったようで今年は時期を早めることにした。このイワナ釣りも恒例化しそうな気配である。

小見川を２０時に出発して、そのまま小屋まで直行。小屋前の駐車場に着くと、車が数台停めてあった。たぶん全員山に登っている人の物だろうと思いながら、小屋に運ぶ荷物を下ろしていると、ライトの明かりが近づいてくる。何かと思ったら、車の車輪が側溝に落ちて動かせないので、あげるのを手伝って欲しいとのこと。大学生くらいの若者が３人で山に登ろうと来ていたようで、誰か来るまでずっと待っていたようだ。可愛そうなので手伝うことにした。５～６人で持ち上げようとしたが重くてあがらない。先に荷物を小屋に運んでいた宮崎さんがやってきて、見つけた板を車輪の下に上手く挟む。エンジンをかけ、みんなで押すとすんなりと脱出できた。さすが元消防隊員。若者たちは車の中で寝るようで、小屋には予想通り誰もいない、寝る前にとんだハプニングがあったが、皆思い思いの場所に陣取り眠りに就く。

翌朝、６時起床で朝食。準備を整えイワナ釣りに出発(7:38)。あいにく小雨がぱらついている。雨の中の釣り行である。内田さんは、小屋でのんびりと過ごすと言うことで、ＣＤラジカセとポータブルＣＤ、２台も持ってきている。我々４人は、内田さんに見送られながら、小屋前の本流を渡渉し、対岸の登山道を２０分くらい歩き、沢に下りる。ポイントポイントで竿を垂らすが、本流では全く釣れない。しばらく本流を遡り、右と左に枝沢がある場所で、刺身サイズ１匹と唐揚げサイズ数匹を釣ることが出来た。更に上流の枝沢を目指してしばらく歩いていると、雨が強くなってきた。増水して戻れなくなると行けないので、引き返すことにした(11 時頃)。

引き返す途中、最初に釣った枝沢で、遠藤さんと私で再チャレンジ。二人で一匹ずつ、刺身サイズをゲット。しかも、遠藤さんの釣ったのはメスで卵も持っている。

これでイワナづくしの宴会が出来る。
急いで内田さんの待つ小屋に戻る。小屋地点の渡渉、やはりかなり水量が増え、流れが速い。３人は何とか流されずに渡りきるが、宮崎さんは、「危険！渡るな」という崩れそうな吊橋を果敢に渡る。

小屋に戻ると、内田さんがＣＤを聞きながらくつろいでいた(12:45)。休憩後、近くでもう一度釣りをするために、玄関先で内田さんの入れてくれたコーヒーを飲みながら、遅い昼食をとる。冷えた体に温かいコーヒーがしみる。しばし、くつろいだ後、１４時頃まで再度イワナ釣りをすることに。

小屋前の小さな枝沢で、私は２匹、宮崎さんも数匹。最終的に１０数匹を釣り上げることが出来た。沢支度の後始末をして、小屋の中に入り、コーヒータイム。そこに内田さんから、水野さんの誕生日祝にと、ロールケーキが出てきた。みんなで祝い、ケーキを美味しく頂く。

１６時過ぎ、一休みを終え、イワナの処理に係る。なんと言ってもイワナの刺身は、遠藤さんの口による皮はぎ、宮崎さんの三枚おろしの包丁さばき、この連係プレーが見事である。

刺 身

卵の醤油漬け

ホイル焼き用

イワナの下処理が終わると、採ってきたミズのコンビーフ炒め、イワナの唐揚げや南蛮漬け、内田さんが用意したメインの料理、枝豆、野菜サラダ、漬け物などなど、テーブルが食べきれないほどの料理で埋め尽くされる。そして、準備が整った１７時頃から、ビールで乾杯をして、美味しい料理に舌鼓をうちながら、楽しい会話、美味しいお酒を飲み、夜遅くまで、宴会が続くのである。今回もう一つ楽しみにしていた薪ストーブが煙突を外してあったため、使えなかったことが残念ではあるが。

最終日８日。朝起きると、小屋の正面見下ろす位置にきれいな虹が現れる。早起きした三人だけが見た光景である。朝食を済ませ、食後のデザートにリンゴや梨を食べ、１０時過ぎまでゆったりと過ごした。他のパーティの居ない貸し切りの小屋は本当に気楽にのんびりと過ごせる。

いよいよ小屋ともお別れ(10:46)、荷物をまとめて、入浴するため、白川温泉白川荘に向かう。ここで２日間の汗を流し、三ノ倉高原のひまわり畑を見に行く。ちょっと時期は遅いのだが、少しは残っているのではと期待を込めて。やはりほとんどの畑はすでに刈り取られており、幸福の鐘のある西側が少し残っているのみであったが、スキー場にひまわりを植えてあるだけに見晴らしが良く、満開の時期ならば見事であろうと思われる。この後帰路につき来年も是非来よう、恒例にしようと思うのであった。

涸沢～北穂高岳

佐 藤 健 一

日　　程　　平成２９年９月２９日～１０月１日
パーティ　　佐藤（健）

娘に誘われて９月に涸沢に行く計画を立てていましたが、足を怪我したので行けなくなったという連絡が直前にありました。どうしようか迷っていたところ、紅葉のピークとなる９月末の金曜日から月曜日まで晴天が続く予報。もう、単独でも行くしかない！　涸沢は相当混雑することが予想されたので小屋泊は避けてテント泊とし、金曜日の休暇も取って２泊３日で、条件が良ければ北穂にも登る計画としました。単身赴任先のアパートが調布ＩＣに近いのでアパートから出発することとし、道具を積んだ車を日曜日に銚子から移動させて準備万端整えました。

９月２９日（金）

前日早く寝て０：３０にアパートを出発。平日の深夜で渋滞もなく、３：３０沢渡バスターミナル駐車場に到着。すでに駐車場は９割ほどの混雑。バスの始発は５：４０でしたが、乗り場の様子を見に行くとタクシー乗り合い待ちの人がちらほらと。そこで４：３０頃に居合わせた人たちとタクシーに乗車。中の湯ゲートが開くのを５時まで待ち、そこからほどなく上高地バスターミナルに到着。明るくなるのを待って５：３０に歩き出しました。

最初は朝霧の中でしたが、明神を過ぎるころから空が晴れ渡ってきました。明神岳と梓川が美しく映えるなか、早速、デジカメを取り出し、スイッチＯＮ・・・・と思いきやまったく反応なし。バッテリーをフル充電し、作動確認してきたのに、なぜ？？？　バッテリーの不良かカメラの故障か、この時点で写真はスマホ頼みとなり、充電残量を気にしながら写真を撮ることとなってしまいました。

そして１２：００息絶え絶えに涸沢ヒュッテ到着。まさに涸沢カールは紅葉のピークを迎え、写真で見た景色が目の前に広がり、あちこちから感嘆の声が上がっていました。想像以上の絶景に疲れも吹き飛び、

しばらくヒュッテ前で景色を眺めたあと、テント場に寝床の確保に向かい、ヒュッテから少し離れた所でしたが、いい場所を見つけてテントを設営しました。涸沢ヒュッテ名物の生ビールとおでんは北穂登頂までお預けにして、あとは紅葉に囲まれた涸沢の景色を堪能しながらのんびり散策。３時を過ぎるとカールは奥穂の日陰に入り、写真撮影も終了。あとはやることがないので早々に夕食を食べ就寝。

９月３０日（土）

早朝、穂高連峰のモルゲンロートは、東の空がうす曇りのため赤く染まらず不発でした。天気予報は晴天続きなので北穂を目指すこととし、６時出発。順調に高度を稼いで行き、７時頃には雲一つない青空となりました。頂上から下りてくる人は皆、見事な景色を口にし、期待は高まるばかり。

そして９時に北穂高岳山頂に到着。なんとまあ、見事に晴れ渡った眺望！北は白馬から南は富士山まで雲一つなく、３６０度遮るものがありません。風もおだやかでいつまでも眺めていたい！

早速スマホを取り出し、寒さで充電量が急激に落ちたために温存していた撮影を再開。しかし、記念写真を撮ってもらい槍ヶ岳方面を撮り、パノラマ撮影を始めたところで充電切れ。３６０度のパノラマ写真が撮れればいい記念になったのに、と大変悔やまれました。その後、北穂高小屋に立ち寄ってコーヒーと景色を堪能し、９：３０から下山を開始し１２時にテントに戻りました。

そして、お預けにしていた生ビールとおでん！ということで、速攻、涸沢ヒュッテ

に向かいました。まずはヒュッテでスマホを充電し、すでに混みあってきたテラス席で横浜から来たという３人組と相席させてもらい、グッと一杯。聞けば今晩はヒュッテで１つのふとんに３人だそうです。北穂をバックにジョッキを傾ける姿を撮ってもらい、お礼にパノラマコース途中の涸沢全体のビューポイントを教えてあげました。ちなみにネット情報では、この日のテントは定数５００張のところ１４００張だったらしいです。傾斜地、雪渓の上、植物保護区域などに無理やり張ったテントも多く、昨日来ることができて本当に良かった。

１０月１日（日）

早朝、昨日見られなかったモルゲンロートが、この日は見事に赤く染まり感動しました。そして6:３０に下山開始。徳澤園でソフトクリームを味わい、明神の穂高神社に無事の下山をお礼参りし、１２:３０にバスターミナル到着。横尾～徳澤の平らな道で思い切り転んでしまうほど足はヨレヨレでしたが､素晴らしい紅葉と晴天に恵まれ、非常に充実した山行になりました。

娘の誘いがなければ涸沢行きは考えなかっただろうし、娘の怪我がなく二人で来ていたら１泊２日となって北穂に登ることは叶わなかったはず。そう考えると、まさに怪我の功名、娘に感謝。

北　八　甲　田

高 橋 恵 美 子

日　　程　　平成２９年１０月６日～９日

パーティ　　佐藤、高橋(忠)、宮崎、遠藤、水野、佐久間、高橋(恵)

２泊３日の予定なので八甲田はどうかと提案したものの青森は遠い。１０数年前３人で行った時にはなんの躊躇もなく出かけたのに、７人でも遠いと感じてしまうのはやっぱり歳のせいなのか？　山の事故より車の事故が怖い。

雨の中、仮眠のテントも張れず、少し休んだだけでずっと走ってきたので早い時間に着いた。朝になったら止むだろうと思っていた雨は、朝になっても止まない。時々雨足が強くなる。山に入るのを１日遅らせて、先に観光することに決まり、青森の街まで足を延ばす。青森港を散歩し、「ワ・ラッセねぶた」で大きなねぶたの展示や体験踊りなどを楽しみ、酸ヶ湯キャンプ場まで戻ったのでした。キャンプ場は周囲の環境も良く、空いていても寂しいほどではなく、快適。炊事場の大きなテーブルを囲んで、内田さんからのエールを美味しくいただきました。

７日６時４０分キャンプ場出発。朝からいい天気だ。酸ヶ湯周辺は紅葉真っ盛りでとても綺麗だ。仙人岱ヒュッテまでコースタイム１時間半、水を荷揚げしなければならなくなったので荷が増えてしまったが、時間が短いので頑張ろう！　道は整備されているものの雨上がりのせいもあってぬかるんだ箇所が多いが、紅葉に気をとられて苦にはならない。３連休だし、雨で延期した人達もいっぱいいるだろうし次から次へと登山者が上がってきて重荷の私達を追い越していく。

樹林帯を抜けると開けた場所に出る。硫黄の匂いがする。地獄湯ノ沢の源頭か、真下に八甲田ホテルの屋根が見える。木の橋を渡ると崩れた沢沿いに登山道はつけられている。足場の悪い道を更に上がっていくと木道に出る。仙人岱の一角だ。

八甲田清水の水場は、以前来た時には風呂桶のような木枠から溢れるほど美味しそうな水がガンガン出ていたのに、枯れてしまうなんて信じられない。おかげで荷物が増えてしまった。これも大震災の影響かもしれない。

水場手前を右に折れると懐かしの仙人岱ヒュッテに着く。小屋では管理を委

託されているらしい方が清掃の最中だった。建物は傷んでいる部分もあったがよく手入れされているし、トイレも以前よりも綺麗になっていてホッとしたのでした。古いけれど居心地の良いこんな小屋はいつまでも残っていて欲しいと思う。

後から休憩にやって来た感じの良い地元のおじ様たちに見送られ、次の目的地小岳～高田大岳へと向かう。道は更に悪くなる、おまけに段差が激しくなり足を上げるのも一苦労、疲れる。ほとんど他のパーティには会わないだろうと思っていたらそんなことはなく、小岳までは結構人が入っていた。山頂で展望を楽しんだ後、ここで下ると言う水野さんと別れ高田大岳へと向かう。ド～ンと下ってド～ンと上らなくてはならない。高田大岳ってこんなに高かったっけ？　増々道は悪くなる。スパッツ付けてて良かった！

途中で会った谷地温泉から登って来たというお姉さんが「高田大岳の紅葉がすごいですよ～、海みたいですよ～」と興奮気味に言う。確かにすごかった！高度を上げるにつれ足元に広がる紅葉、確かに海だ～。　その向こうに本物の海。スケールの大きいこと！　高田の頂上も、もちろん素晴らしい眺め。遥々やって来た甲斐がありました。

下りですっかり膝を痛めてしまったが、無事仙人岱まで。八甲田清水の小さな流れで顔を洗ってスッキリし、小屋に戻る。願い通り誰もおらず、３連休とは言え登山口から近いので、混むほどにはならないだろうと考えていたが貸切りとはラッキーでした。椅子やテーブルもあるのでリラックスした体勢で夕食。せっかく担ぎ上げてきて、他に遠慮するパーティがいる訳でもないのに、お酒大好き組の男性陣はいまひとつ盛り上がりに欠け、９時前には揃って就寝。やっぱり飲ませ上手の内田会長がいないとだめだね～。次の日もあるしね。

小屋の前からは弘前の夜景、空にはくっきりと月。静かに夜はふける。

９日４時起床。出来れば混雑する前に山を下りたい。佐久間さんのすべて手作りの朝食を美味しくいただき、元気に出発。まずは大岳山頂へ。

上るにつれ小岳が低くなり、円錐形の高田大岳がどんどん高く大きく見える。立派な山だ。急になった階段状の登山道をジグザグに登り、鏡池をすぎ、火口に沿ってさらに進んでいくと大岳頂上だ。遮るものがない。空に浮かぶ津軽富士こと岩木山、南に十和田の山々、昔登った戸和利山や十和田山。南八甲田の山々。そして海！　陸奥湾のアーチ状の海岸線、下北半島と津軽半島がかすんでいる。青森の街もすぐ下に、八甲田丸も見えるよ。海から１時間もかからないで酸ヶ湯まで来れる。なんとも羨ましい限りだ。

前回もそうだったが頂上は風が強く、薄曇りで肌寒い。大岳避難小屋前で左折。

樹林帯を抜け、ロープウェイへの道を右に分けると待望の上毛無岱へと入る。草紅葉の湿原の中に付けられた木道を進むと休憩スペース。急ぐこともないとティータイム。忠さんのここ限定のジョークなど聞きながら、至福のひと時を過ごす。

上毛無岱から下毛無岱へは木製の階段を降りていく。八甲田の紹介と言えば必ずと言っていいほどここの写真が使われる定番スポット。周囲の紅葉と真下にみえる湿原の美しさはさすが、大勢の人々が押しかけるわけだ。まだ時間が早いので人もそれほど多くはないが、昨日はたぶん大渋滞だったにちがいない。けれど、本当にすごかったのは階段の下でした。振り返って目にしたその風景に思わず歓声があがる。なんと綺麗な紅葉だろうか！　ため息が出そうだ！

この後、もう１度湿原で休憩。下ってしまうのかと思うと名残惜しくて…。再度樹林帯に入っても、ただただ美しい紅葉で…　何も言うことはありません。登山道は最後に酸ヶ湯温泉の真上に出る。見下ろす酸ヶ湯周辺はまた一段と紅葉が進んだようで、色とりどりの樹々たちがホントに美しい。

今回は１日遅らせた事で天気に恵まれ、小屋泊まりにした事で他の登山者と時間差が出来ゆっくりと山を楽しめ、大満足の山行となりました。これが最後かもって思ったけど、また行きたいなぁ！

クロトウヒレン

金 井 秀 明

北アルプスの白馬岳は思い出深い山です。一般的には大雪渓と高山植物に代表される華やかな北アの女王的なイメージがありますが、私にとっては勉強の山でした。

大学で所属していた自然保護ゼミが、環境庁や白馬村からの委託でいろいろな調査を行っていたので、いま考えるとそのおかげでなかなかできない経験をずいぶんさせてもらったなあ、と感謝です。

植生図をつくるために特別保護地域にも自由に出入りして、さまざまな希少種を目にすることができました。動物の研究をしている人もいたので、ライチョウや高山帯のネズミなどの珍しい生態も学べました。

役得だったのは、無料で山小屋に泊まれたことです。白馬山荘や村営小屋で、専用の部屋で数日間過ごすのはとてもうれしいことでした。なかでも白馬山荘が営業を始める春先に行ったときは、ちょうど個室を設けたりレストランをつくったりするバブル化のはじまりの時期で、新しいメニューのフランス料理などの試食をさせてもらったりしていい思い出になっています。

そんななかで、やっていたことのひとつに植生回復の実験がありました。人間に踏まれて裸地になってしまったところにさまざまな種をまき、裸地回復に役立つ植物を見つけるのです。もちろんイネ科の地味な植物が適しているのですが、いわゆるきれいな花をつけるものではミヤマコウゾリナやアキノキリンソウ、タカネニガナ、アラシグサ、クロトウヒレンなどが成績よかったように記憶しています。なかでも黒とピンクのめずらしい色合いのクロトウヒレンは気になる花でした。わけわからない名前にひかれたのかもしれません。漢字では黒唐飛簾、なんだかよくわかりません。飛簾が中国ではアザミのことだとかなんとか、いろいろな説がありますが結局よくわからないままです。

裸地を少々耕して種をまき、土が流れないようにネットをかぶせた畑を白馬岳周辺に何か所か作りましたが、卒業してからは七年後に一度行っただけでそれから二十数年間行っていません。あの畑はどこだったかわからないくらい繁ってお花畑の一部になっていればいいなあ、と願います。

表紙のことば

金 井 秀 明

先日、テレビで北アルプスの縦走路をドローンで空撮した番組を見た。今まで不可能だった角度からの映像は、見ごたえがあった。自分の足で歩いているだけでは決して見ることができないわけで、ずるい映像だなあと思ったりもした。

そして、北アルプスあたりの高山植物にかこまれたゆったりとした縦走路を歩いていると、ふとその先に遠くの山々が顔を出す風景を想像してみた。

今回はそのイメージで、ハクサンイチゲの群落の先に遠望する山を描いてみました。飯豊の杁差岳からの写真を参考にしたので北アルプスではないですが。

平成２９年度　役員

会　　長	古 川 進 一
副 会 長	水 野 照 雄　金 井 秀 明
ﾁｰﾌﾘｰﾀﾞｰ	宮 崎　睦
リーダー	水 野 照 雄　高 橋 恵 美 子
	遠 藤 博 昭　原 田 裕 之
事 務 局	金 井 秀 明
会　　計	内 田 章 子　永 井 陸 夫
庶務連絡	佐 藤 健 一
装　　備	金 井 秀 明
会報編集	金 井 秀 明　水 野 照 雄　高 橋　忠
	内 田 章 子　高 橋 恵 美 子　高 橋 充 夫

ふ み あ と

平成28年

10月27～29日	惣山（きのこ山行）・・・・・・・・	水野、遠藤、宮崎、佐藤、内田、永井、高橋忠、高橋充
11月11～13日	瑞牆山・茅ヶ岳・・・・・・・・・	宮崎、遠藤、高橋忠、佐久間
11月25日	宝篋山・・・・・・・・・・・・・・・	宮崎、遠藤、高橋忠、佐久間
11月25日	筑波山・・・・・・・・・・・・・	高橋恵、内田、（沼橋）
12月14～16日	霊山（忘年山行）・・・・・・・・	水野、遠藤、内田、高橋恵、佐藤、高橋忠、宮崎

平成29年

1月12日	宝篋山 ・・・・・・・・・・・・・	内田、高橋恵、遠藤、高橋忠、（沼橋）
14日	鶏鳴山 ・・・・・・・・・・・・・・	宮崎、高橋忠、佐久間
2月4日	生瀬富士・月居山 ・・・・・・・・	宮崎、内田、高橋忠、佐久間
12日	安達太良山（敗退）・・・・・・・・	原田
18～19日	スノーシューハイキング・・・・（戦場ヶ原・小田代ヶ原、金精峠）	水野、宮崎、遠藤、内田、原田、佐久間、大竹
27日	宝篋山・・・・・・・・・・・・・・	宮崎、他1名
3月3～4日	湯ノ丸山 山スキー ・・・・・・・	佐藤
4日	会津磐梯山・・・・・・・・・・・	原田
4～6日	頸城山塊 山スキー・・・・・・・・	宮崎、他6名
7日	鶏足山・・・・・・・・・・・・・	宮崎、他3名
10日	四阿山・根子岳・・・・・・・・・	宮崎
19～20日	昼闇山・・・・・・・・・・・・・	原田
25～26日	鶏足山・・・・・・・・・・・・・	宮崎、他1名
4月2～4日	栗駒山 山スキー ・・・・・・・・	宮崎、水野、佐藤、内田、高橋恵、高橋忠
13～15日	西大巓・東吾妻山・・・・・・・・	宮崎
14日	鶏足山・焼森山	高橋恵、内田、（沼橋）
5月2～5日	鳥海山 山スキー・・・・・・・・・	宮崎、遠藤、高橋忠

3 日	越後駒ケ岳・・・・・・・・・・	原田
14～15 日	社山・・・・・・・・・・・・・・・	高橋恵、内田、遠藤、高橋忠、(沼橋)
19～21 日	岩菅山・・・・・・・・・・・・・・	遠藤、佐藤、高橋忠、佐久間
21 日	両神山・・・・・・・・・・・・・	原田
6 月 3～4 日	剣ヶ峰・三本槍岳・・・・・・・	宮崎、高橋忠、佐久間
8～11 日	鳥海山(山菜山行) ・・・・・・・・	水野、宮崎、佐藤、遠藤、内田、高橋恵、高橋忠
6 月 28～7/1 日	栗子 滑谷沢左俣・・・・・・・・	宮崎、遠藤、高橋忠
7 月 6～7 日	赤城山(黒檜山)・・・・・・・・	高橋恵、内田、水野、遠藤 高橋忠
14～16 日	二岐山・三倉山・・・・・・・・	宮崎、高橋忠、佐久間
26～27 日	塩原 上戸倉沢・・・・・・・・・	宮崎
31～8/3 日	斑尾山・黒姫山(夏山合宿) ・・・	宮崎、遠藤、内田、佐藤 高橋忠、高橋充
8 月 17～19 日	滝谷川・柳川・・・・・・・・・	宮崎、高橋忠、佐久間
9 月 6～8 日	白川 (飯豊)・・・・・・・・・・	宮崎、水野、遠藤、内田 高橋忠
15～17 日	阿武隈川本谷・・・・・・・・・	宮崎、遠藤、高橋忠、佐久間
22 日	赤城山(地蔵岳)・・・・・・・・	高橋恵、内田、遠藤、(沼橋)
29～1 日	北穂高岳・・・・・・・・・・・	佐藤健
10 月 6～9 日	八甲田山・・・・・・・・・・・	水野、遠藤、宮崎、佐藤、高橋恵、高橋忠、佐久間
10 月 26～28 日	明神ヶ岳 (きのこ山行)・・・・・	水野、宮崎、佐藤、高橋恵 遠藤、高橋忠、高橋充、内田

編　集　後　記

今年は、雨で中止になったり、雨の中の山行であったりと、雨にたたられた回数が例年になく多いように感じる。体力的にも衰えを感じ、沢や山スキーも行く場所が限られてきたが、同じ場所でも良いところは何度行っても良いので、のんびり楽しく山行を重ねていきたいと思う。

高　橋　　忠

山へ行けない一年でした。集会では他のひとの山行報告を聞いてばかりでストレスがたまってしまう。体重も増えてきたし、来シーズンは活動しないと！

金　井　秀　明

一番は３度目の万助小舎に行けたことですが、宝篋山始め、近くの日帰りの山も楽しめたことなど一年を通して充実した山行ができました。

内　田　章　子

久しぶりに訪れた北八甲田は素晴らしい紅葉で、ただただ満足です。

高 橋 恵 美 子

昨年は坐骨神経痛で不参加だったが、今年は体調万全で迎えた夏山合宿。野尻湖、班尾、黒姫。眺望は今ひとつだったが、山のてっぺんに立つことの楽しさを感じられた山行でした。

高　橋　充　夫

夏山合宿には参加できなかったが、スノーシュー山行、山スキー、山菜山行、イワナ釣り、紅葉の山、キノコ山行と季節の登山を楽しめました。ほぼ満足です。

水　野　照　雄

「ぎんれい７３号」

発　　行　〒288-0837　　千葉県銚子市長塚町３－１４８
銀 嶺 山 岳 会
TEL. 0479(22)7698

http://www.asahi-net.or.jp/~cj4k-stu/

編　　集　編集委員
発行月日　平成２９年１２月２日
印　　刷　フルノライフベスト株式会社